

# 優勝

## 坂口安吾に馳せる 続・墮落の間

群馬県 | 群馬県立桐生工業高等学校 選手 / 3年生5名、1年生2名



表彰式にて



生徒謝辞



**面積表**  
敷地面積: 447.50㎡  
建築面積: 111.18㎡  
一階床面積: 233.11㎡  
二階床面積: 111.18㎡  
延床面積: 344.29㎡

**配置図兼一階平面図 1:100**  
1: 展示の場 企画展示室  
2: 2階の下の階  
3: 展示の場 展示室  
4: 展示の場 展示室

**二階平面図 1:100**

**東立面図 1:100**

**坂口安吾に馳せる 続・墮落の間**

400年という歴史を持つ、わが桐生市。購物都市として栄え、重伝建地区にも指定されているこの町に、かつて坂口安吾という作家が住んでいた。戦時中から戦後の混乱期にかけて活躍した作家・坂口安吾。太平洋戦争と共に、無縁とされる地帯を築いた。彼の夢ともいわれるエッセイ「墮落論」。そこで安吾は夢を成すことを決意した。それは第二次世界大戦終了後、敗戦や苦労が美徳とされた風潮が及んでいながら発表されたものである。国に生きる道しかなかった彼に、しかしながら、自分に生きる道を示したのだ。「生きよ、書らば」そう安吾は叫び、人間から落ちるのではなく、生きているから落ちるだけなのだ。そこに希望と理想はなく、ただ、正しくあるべき道がある。戦時や戦後に苦しみに陥る人々を救済するのと同じく、戦後に苦しみに陥った安吾。「墮落論」などの作品を執筆し、48歳でその生涯を終えることになる。かつて安吾が作家としていた旧書上家の敷地は現在、取り壊されてしまっている。その敷地を復元したものを、ここでは「安吾邸」とする。旧書上家の母屋となる部分は生花店として現存しており、軒が「せがれ通り」の重厚な店構えとなっている。

そこで今回、私たちはこの「安吾邸」を主として、安吾の作品を取り入れ、町に響く仕掛けを設計した。住人が安吾を語る会の代表である人々と協定し、ここを安吾記念館とし、和室を添えて安吾の館を伝える場所にするところを願う。

この建物は、桐生市新町重伝建地区の一角に位置する。2階建ての構造になっており、1階は公・私、2階は公的な場。1階は古書店を模した安吾の支店、セカンドハウス、新しい和室として提案する「墮落の間」、2階は書斎兼展示コーナー、展示コーナーで構成される。Nさんの元、全国の安吾ファン・学生が主に集い、学び、安吾を、生き残る。墮落の間は「せがれ通り」のよう外へと広がる空間である。

終わりに、安吾は「日本文化社」の中で、ブルジョワの日本礼儀に対する考えを書いた。日本人が和室を離れなくなったが故かどうということはない。必要ならば和室を復活してしまえばいいと語り、伝統とは何か、美とは何かを世論に問いかけた。私たちが作った新しい和室「墮落の間」は、安吾の目にどう映るであろうか。

花のにしはらさん立立面図 文庫や現地踏査をもとに作製

桐生市中心部の重伝建地区の中で、かつて坂口安吾が住んでいた場所に、彼の記念館を建てるとするのが計画の概要です。建物は彼が昔住んでいた家の形を復元するように計画されていて、計画地の歴史や今は失われてしまった建物の資料を集めるなど事前のリサーチがしっかりとっていることにまず感心しました。

さらに作者は坂口安吾の生涯や彼の文学を通じて彼が表現したかった考えについても丁寧に学び、建物を単なる記念館ではなく、来館者が彼の文学に触れ、その本質について語り合い、彼の考えを体験する場として設定されていて、その指導を行う安吾の研究者の住宅も兼ねているという施設内容が具体的に現実性を感じさせられました。

しかし最も評価が高かったのは、坂口安吾が用いる墮落という言葉が戦後の混乱期に人間らしく自由に生きることを意味していると理解した上で、その意味を体感する場として一畳の畳の間をつくったことです。しかもその畳の間は床から1mほど上にあり、半分外壁からはみ出すように突出していて、天井が極端に低く、ひとりきりの狭い空間でありながら、半分社会に開かれているよ

うな不思議な空間となっています。くつを脱ぎ、家具も何もない部屋の畳の床にひとり横たわるという行為が、安吾の言う社会のしがらみを捨てて自由に生きるという「墮落」の意味とよく合っており、和室の解釈として独創的だと感じました。

若い人達が和室をどのようにとらえているかについては今回の審査で最も興味深いところでしたが、本案では精神を開放し自由を獲得する場として和室を考えていることに新鮮な驚きと共感をおぼえました。確かにくつを脱ぎ柔らかい畳の床の上に横になりその匂いを嗅ぐと、不思議に心が落ち着き、精神が澄み渡るような感覚になります。

和室の良さというのは、床の間や天井や欄間の見事な造作でもなければ、多目的に使用できる使い勝手の良さでもなく、そこに横たわることでの精神を浄化することにその本質があることを作者が見事に見抜いていることに最大の敬意を表したいと思います。現代の西洋的な生活習慣から見れば、その光景はだらしく見えてしまうかも知れませんが、それを「墮落」という一見ネガティブなキーワードで表現したことも逆説的ですが実に的を射ていると思いました。

(横内敏人)

### 受賞のことば

この度は優勝という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。ご支援くださった地域の方々には感謝してもきれません。この作品は、桐生新町重伝建地区にかつて存在していた旧書上邸を再現し、活用したものです。

柔軟な、日本独自の和室に坂口安吾の墮落論を結び付け、「墮落の間」をはじめとした新しい和室を提案しました。

作品作りにあたり、2連覇がかかっているということがプレッシャーに感じる時もありまし

た。しかし、先輩たちが繋いだ10を超える作品が助けとなり、最後までやりきることができました。締め切り間際まで試行錯誤したこと、暗くなるまで仲間とアイデアを出し合ったことも、かけがえのない経験であり、財産となりました。

今後は横内敏人審査員長をはじめ、多くの皆様からのご評価を励みに、本大会で得た学びを人生に生かして努力してまいります。

桐生工業高等学校 建設科チーム一同